

# 関西医科大学 広報



陽の光を浴び輝く枚方学舎と附属病院

## 創立90周年へ向けてさらに高く

Vol.36

### CONTENTS

法人： 理事長年頭所感、賀詞交換会	P.1～
法人： 創立90周年記念事業実行委員会設置	P.8
法人： 看護学部棟新築工事起工式举行	P.10

大学： 平成28年度大学院企画セミナー	P.13
病院： 第13回医療安全大会開催	P.17
学会主催情報・学会賞受賞情報・ 教職員編著作物紹介	P.22

## 理事長年頭所感表明・賀詞交換会

年頭所感  
—理念・共有一—  
教育 研究  
診療 法人

1月4日(水)午後4時から枚方学舎加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、発表の様子は総合医療センターおよび香里病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は冒頭「今年の干支・酉にあやかり、本学にとっても教職員の皆様にとっても福々しい年となるように」と挨拶。続いて「教育」「研究」「診療」「法人」に分け、2016年の概観と今後の展望について述べました。最後は「現状に安心した時から退化が始まる。変化を恐れず挑戦を」と結び、教職員にたゆまぬ努力の必要性を訴えました。



厳かな雰囲気の中、年頭所感表明が行われた



新年の挨拶を述べる友田学長

### 賀詞交換会(枚方地区)

山下理事長の年頭所感表明の後、枚方学舎3階学生食堂に会場を移して枚方地区の賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院・附属看護専門学校から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

友田幸一学長は新年の挨拶の中で、医師国家試験における出題傾向の変化への対応、AI(人工知能)を用いて特定困難な疾患を抱える患者さんの診断と疾患解析を目指す体制(未診断疾患イニシアチブ=IRUD)を構築する構想など、今後の方針について言及しました。乾杯の挨拶は附属病院澤田敏病院長(常務理事)が務め、「附属病院は開院から11年を迎えた。何時も最新かつ最良の医療を提供するべく、今年は診療機能強化に欠かせない投資は惜しまずに行っていく」と述べ、さらなる成長へ強い意欲を示しました。その後会場では、教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながらさらなる飛躍に向けて絆を深めました。



乾杯の音頭をとる澤田病院長

### 賀詞交換会(滝井地区)



挨拶する岩坂病院長

総合医療センターと天満橋総合クリニックの合同賀詞交換会は、総合医療センター南館3階大会議室にて行われました。総合医療センター岩坂壽二病院長(常務理事)は「総合医療センターは病院機能評価の受審を控えた重要な年。気を引き締めて臨みたい」と挨拶。続いて天満橋総合クリニック浦上昌也院長が「今年も職員が一体となって病院の運営に取り組んでいきたい」と述べました。その後は木下利彦理事が音頭を取り、全員で乾杯しました。

### 賀詞交換会(香里地区)



挨拶する高山病院長

香里病院では、8階会議室で賀詞交換会が開催されました。高山康夫病院長が「DPC対象病院への移行や訪問看護ステーションの立ち上げなど、昨年は無事に実現できた。地域の医師から良い評判を聞くことも増えている。根底にある温かい医療を大切に、より良い香里病院を目指して皆さんにも一層の努力をお願いしたい」と挨拶。乾杯の後、教職員がそれぞれ歓談しました。

## 創立90周年記念事業実行委員会の設置について

本学は平成30年6月30日(土)に創立90周年を迎えます。これに向けて平成28年7月、理事長直轄「創立90周年記念事業企画作業部会」が設置され、記念事業等に関する検討に着手しました。平成28年11月までに3回の部会を開催して骨子が固まり、山下敏夫理事長を委員長、友田幸一学長を副委員長とする「創立90周年記念事業実行委員会」が設置され、今後はこの委員会を中心に、90周年記念事業の準備を進めていく予定です。

また、具体的な活動を進めるにあたっては、式典・講演・祝宴委員会、施設・設備委員会、出版・広報委員会、募金委員会の4つの委員会が実行委員会の下部に設けられました。これらの委員長はそれぞれ、澤田敏常務理事、神崎秀陽常務理事、松田公志理事、

友田学長が務めます。

本学創立90周年にあたる平成30年には、記念式典・講演・祝宴を7月1日(日)に開催し、また記念事業として、総合医療センターホスピタルガーデン整備事業およびグランドオープン、看護学部・看護学研究科の設置(構想中)、さらに牧野講堂(武道館)建設を推進しており、加えて今後の構想として、国際交流センターやホスピタルイン機能を備えたタワー棟の建設、および最先端医学研究所設立も検討を進めています。

なお、周年事業についての進捗は、春以降開設予定の90周年記念特設サイトや来夏発行予定の広報誌特別号で、引き続きお知らせしていく予定です。



## 施設設備整備拡充資金の募集

関西医科大学では平成28年度の寄付金として「施設設備整備拡充資金」を募集しております。これは医学・医療技術の進歩に対応して教育・研究・診療の施設設備の整備・拡充を進めるためのものです。

皆様のご支援、ご協力をよろしく申し上げます。

募集要項	
1. 募集対象	本学学生の保護者、同窓会員、本学関連の個人および法人その他
2. 募集金額	1口100万円 1口未満でも申し受けます。
3. お問い合わせ先	関西医科大学法人事務局募金室 〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL：072-804-2146 (直通) FAX：072-804-2344

平成28年10月1日から平成28年12月31日までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

## 附属生命医学研究所侵襲反応制御部門学長特命教授に就任して

附属生命医学研究所侵襲反応制御部門学長特命教授 廣田 喜一



平成28年7月1日付けで附属生命医学研究所侵襲反応制御部門の学長特命教授を拝命いたしました。

私は医学部卒業以来、米国滞在の期間を除き一貫して麻酔科医師として臨床に従事して参りました。関西医科大学へは平成25年4月より麻酔科学講座の准教授として赴任し新宮興名誉教授の指導の下麻酔科学講座の一員として勤務をして参りました。今回、理事長・学長のご高配を受け基礎医学の部門を主宰させていただくことになりました。

簡単ではありますが私たちの部門の紹介をさせていただこうと思います。

侵襲反応制御というすこし聞き慣れない言葉は麻酔科・集中治療領域の臨床の場面を想定したものです。麻酔科学は手術中の患者さんの意識をなくす医療上の技術として産声をあげましたが、現代では手術侵襲・ストレスを制御する学問として生体応答の幅広い分野がその研究対象となっております。私たちの部門では生体の酸素代謝の乱れに端を発するストレスに対する生体応答の研究を主軸に据えております。酸素は細胞内のミトコンドリアでの効率のよいエネルギー産生に関わる分子で生体のエネルギー産生に必須である一方、生体内のシグナル伝達に重要な役割を果たしている分子でもあります。酸素から生成さ

れる活性酸素種は生体への毒性を発揮する場合がありますが細胞内シグナル伝達のセカンドメッセンジャーとして必須の役割を果たしております。

このような多様な役割をもつ酸素の不足を酸素代謝異常と捉え生体へ及ぼす影響を検証する学問をハイポキシア(低酸素)生物学と名付けました。このハイポキシア生物学が私たちの研究のテーマです。酸素代謝異常は幅広い疾患で観察されます。ハイポキシア生物学研究は麻酔科・集中治療領域のみならず臨床・基礎医学の幅広い分野の発展に寄与すると考えております。皆様のご指導・ご協力のほどを今後ともよろしくお願いいたします。

### 略歴

昭和63年3月	京都大学医学部医学科卒業
平成8年3月	京都大学医学研究科博士課程所定の単位修得及び研究指導認定
平成9年3月	博士(医学)京都大学
平成8年6月	京都大学医学部附属病院麻酔科助手
平成11年8月	ジョンスホプキンス大学医学部客員教授
平成14年2月	独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
平成17年4月	京都大学大学院医学研究科・侵襲反応制御医学講座・麻酔科学分野講師
平成24年4月	京都大学医学部附属病院手術部副部長准教授
平成25年4月	関西医科大学麻酔科学講座准教授
平成28年7月	関西医科大学附属生命医学研究所侵襲反応制御部門学長特命教授

## 神経内科学講座神経内科担当診療教授に就任して

神経内科学講座神経内科担当診療教授 近藤 誉之



平成28年10月1日付けで神経内科学講座神経内科(総合医療センター)担当診療教授を拝命いたしました。総合医療センターでは神経内科の入院診療も再開しております。当地での神経内科診療をできるだけ早く軌道に乗せるとともに、日下博文教授の主宰される神経内科学講座に貢献できるように努めたいと存じます。

に努めたいと存じます。

私は昭和62年に京都大学を卒業し、以降、京都大学病院(神経内科、地域ネットワーク医療部)、地域の基幹病院(和歌山赤十字病院、福井赤十字病院、北野病院、武田病院)、神経難病診療に力を入れた国立病院機構(長崎神経医療センター/現長崎川棚医療センター)で臨床経験を積んで参りました。福井、長崎では神経難病のネットワーク作りにも関わり、また京大地域ネットワーク医療部では医療連携、在宅医療などに関する見識を広げることができました。

神経内科の領域は大変広く、求められている機能は各施設で異なります。私は機能の異なった病院にて、頭痛、めまい、しびれなどの日常的愁訴への対応から神経難病の診断、治療、マネジメントまで幅広い経験をさせていただきました。多発性硬化症や視神経脊髄炎などの神経免疫疾患に関しては、1992年から10年ほど国立精神・神経センター(現国立精神・神経医療

研究センター)や米国国立衛生研究所(NIH)で研究生生活を送り、国立精神神経センター免疫研究部室長を辞した後も神経免疫疾患の臨床研究、基礎研究を続けて参りました。

今後は総合医療センター神経内科を皆様に支えていただき、自らは患者さん、地域の先生方から信頼される存在になれるよう誠心誠意努めたいと思っております。さらに、神経免疫疾患においては総合医療センターを国内の拠点病院にできますように頑張っていきたいと存じます。また、神経免疫疾患の臨床、基礎研究を継続し、その成果を滝井、枚方から世界に向けて発信できればと思っております。どうか、よろしく願い申し上げます。

### 略歴

昭和62年3月	京都大学医学部卒業
平成元年6月	和歌山赤十字病院第二内科・神経内科医師
平成2年7月	仁仁会武田総合病院神経内科医師
平成7年4月	国立精神神経センター神経研究所第6部ヒューマンサイエンス財団外来研究員
平成9年10月	アメリカ国立衛生研究所(NIH)国立神経疾患・脳卒中研究(NINDS) Neuroimmunology Branch, National multiple sclerosis society postdoctoral fellow
平成11年12月	国立精神神経センター神経研究所免疫研究部室長
平成16年9月	国立病院機構長崎神経医療センター臨床研究部長
平成21年4月	田附興風会医学研究所北野病院神経内科副部長
平成23年4月	康生会武田病院神経血管センター神経免疫センター長
平成25年1月	京都大学医学部附属病院地域ネットワーク医療部准教授
平成28年10月	関西医科大学総合医療センター神経内科診療教授



## 「関西医科大学看護学部棟新築工事起工式」 挙行

平成28年12月7日(水)午前10時15分から、附属病院隣接の看護学部棟建設用地において「関西医科大学看護学部棟新築工事起工式」が挙行されました。山下敏夫理事長、友田幸一学長をはじめ本学理事・評議員のほか、伏見隆枚方市長、大塚光央枚方市議会議長などの地元関係者、さらに基本設計を担った株式会社日本設計六鹿正治取締役会長、実施設計と施工担当の前田建設工業株式会社小酒井公行常務執行役員関西支店長ほか54名が列席。厳粛な雰囲気の中神官の祝詞奏上に続き、施主の山下理事長ほか設計・施工の代表者による地鎮之儀が行われました。

神事終了後の11時からは隣接会場で直会が行われ、山下理事長、伏見市長、六鹿会長、小酒井支店長の挨拶に続き、友田学長の乾杯の発声により開宴。前田建設工

業株式会社関西支店関西医科大学作業所田口英孝所長による手締めにて散会となりました。



盛砂に鋤を入れる山下理事長

## 看護部入職予定者対象内定式開催

平成28年11月19日(土)午後1時30分から、枚方学舎加多乃講堂および同3階学生食堂において、平成29年度看護部入職予定者対象の内定式が開催されました。

加多乃講堂では、附属病院安田照美看護部長による挨拶と内定証書交付の後、専門看護師である安藤有子師長による講話が行われました。

その後は学生食堂に会場を移し、懇親会が開催されました。総合医療センター並木みどり看護部長が音頭を取り乾杯。懇談会では各テーブルに若手看護師が配置され、国家試験対策や配属後の環境についての質問にも丁寧に回答していました。



内定式にて安田看護部長の挨拶を聞く参加者ら

## 枚方信用金庫と包括連携協定を締結

この度本学は、枚方信用金庫と包括連携協定を締結しました。締結式は平成28年12月22日(木)午後2時から行われ、本学山下敏夫理事長と枚方信用金庫吉野敬昌理事長のほか関係者が出席しました。この協定は両者が連携して市民と地域の要望に応える取り組みを行うことで、相互の事業発展に資することを目的としており、その内容は地域医療への貢献、医療ツーリズムに関する取り組み、産官学金連携による地元産業の発展など、多岐にわたります。

また、本学が内閣府の地方創生加速化交付金事業の一

環として取り組むウェアラブル端末を用いた健康創生事業に同信金の職員約30名がモニターとして参加することが決定し、協定に基づく協力が開始しました。



枚方信用金庫吉野理事長(左)と山下理事長(右)

## 中庭を彩るイルミネーションが登場

平成28年12月、枚方学舎中庭に植えられたアラカシの木がイルミネーションの光に彩られました。これは友田幸一学長の発案によるもので、講義や臨床実習で慌ただしい日々を過ごす学生たちや、診療・研究・指導活動にと忙しく働く教職員の疲れを少しでも癒やそうと設置されたものです。日暮れとともに光が灯ると、足を

止めて見入る学生・教職員の姿が見られ、早くも学舎の新名所として話題になっています。





# 今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月25日	目標チャレンジ制度表彰式
	11月19日	看護部入職予定者対象内定式
	12月7日	看護学部棟新築工事起工式
	12月22日	枚方信用金庫との包括連携協定締結
	1月4日	年頭所感表明・賀詞交換会
大学	10月1日	天の川ツーリズムウォーク
	10月6日	平成27年度学長賞授与式
	10月12日	第4回臨床研究等倫理講習会
	10月16日	慈仁会全国懇談会
	10月24日	国際交流セミナー
	10月29日・30日	霜月祭2016
	10月31日	バーモント大学医学部生来学
	11月1日	本学の教育に関する学生との懇談会
	11月12日	ひらかた市民大学2016
	11月16日	平成28年度大学院教育ワークショップ
	11月18日	大学院企画セミナー(第1回)
	11月19日	子ども大学探検隊・中高生を対象とした大学体験事業
	11月19日	臨床研究ワークショップ(看護研究)
	11月21日	レバークーゼン総合病院研究員来学
	11月24日	第42回実験動物慰霊祭
11月25日	大学院企画セミナー(第2回)	
11月27日	平成29年度医学部推薦入学試験	
12月6日	臨床研究ワークショップ	
12月6日	国際交流フォーラム	
12月13日	教員評価優秀者表彰式	
病院	10月15日	災害訓練(附属病院・総合医療センター)
	12月3日	看看連携の会
	12月12日	第13回医療安全大会
	1月4日	賀詞交換会
附属病院	10月11日	インドネシア人看護師候補者訪問
	10月22日	第3回腎移植患者会
	10月26日	2016年病院ボランティアの集い
	11月25日	第1回関西腎臓セミナー
	12月10日	看護研究発表会
	12月17日	クリスマスコンサート
	12月21日	こども病棟クリスマス会
総合医療センター	11月5日	世界糖尿病デーフェスタ2016
附属看護専門学校	10月29日	ホームカミングディ
	11月19日	平成29年度推薦入試試験
	12月20日	キャンドルサービス
卒後臨床研修センター	10月6日・7日	看護管理者研修・看護副師長研修
	10月7日・8日	臨床研修指導医養成講習会
	10月30日	看護職教育担当者研修
	11月5日	
	12月3日	平成30年度採用研修医説明会
	12月14日	総合医療センター研修管理委員会
	12月14日	附属病院研修管理委員会



目標チャレンジ制度表彰式



教員評価優秀者表彰式



こども病棟クリスマス会



総合医療センター災害訓練



看護管理者研修

## 2016年度霜月祭「STAY GOLD」



ハロウィーンに近いこともあり、仮装して演奏する学生も(中庭ステージ)

平成28年10月29日(土)・30日(日)の両日、枚方学舎各所において「2016年度霜月祭」が開催されました。初日は午前10時、中庭に設置されたステージでのオープニング企画で開幕。その後も2日間にわたって、軽音楽部やフォークソング部による演奏、“利きお茶”など、多彩な企画が繰り広げられました。中庭にはテントが立ち並び、クラブが模擬店を出店。おでんや焼きそば、だんご、チュロスなどを学生や教職員、来場した近隣の市民が買い求めていました。

また、加多乃講堂では音楽が鳴り響く中、ダンス部の演技が披露され、会場は日頃講義で使用されるときとは違った雰囲気にも包まれました。さらに、「医学博」の企画では「アロマテラピーと医療」をテーマとした講演や、救急医療(BLS)の体験、手術現場での手技(糸結び)体験など、医科大学ならではの企画も実施されました。



次々とダンスチームが登場(加多乃講堂)



アロマテラピーを活用したルームスプレー作りの様子(オープンラウンジ)

## 教員と学生との懇談会開催

平成28年11月1日(火)午後6時から、枚方学舎4階中会議室において「本学の教育に関する学生との懇談会」が開催されました。これは本学の教育理念である“人間性豊かな良医を育成する”ために、友田幸一学長をはじめとする教員等に対し、学生が日頃の思いを伝え、教員と語り合うもので、本学の自由・自律・自学の学風が象徴的に具現化された取り組みです。

今年は、学生側から学習環境やKMULASに関して、また学館運営の観点から自習環境に関する意見や要望が出され、友田学長や各教授からは、可能な限り対応するが学生自ら対応できることは実施して欲しい等の厳しい意見もあり、本音での議論が盛り上がりました。最後には学生側から大学運営・教育・指導に対する感謝の言葉が述べられ、懇談会は幕を閉じました。

## 学長賞授与式(平成27年度分)

平成28年10月6日(木)正午から枚方学舎4階中会議室において、「平成27年度学長賞授与式」が挙行されました。今回は、第67回西日本医科学学生総合体育大会において水泳女子200mリレーで見事優勝を果たした、水泳部4学年北出桜子さん、同3学年宇野安祐美さん、同2学年天野晶望さんに、友田幸一学長から表彰状と副賞が手渡されました。

その後、友田学長は「これからも文武両道に励んで欲しい」と3名の栄誉をたたえ、列席した福永幹彦学生部長(心療内科学講座教授)や野村昌作水泳部顧問(内科学第一講座教授)、中村加枝学生部副部長(生理学第二講座教授)・中川淳学生部副部長(英語教室教授)とともに、記念撮影を行いました。



記念写真に納まる前列左から天野さん、友田学長、北出さん、宇野さんら

## 平成28年度大学院企画セミナー

平成28年11月18日(金)と25日(金)、いずれも午後5時30分から「平成28年度大学院企画セミナー」が開催されました。これは例年本学が各分野の第一人者を招き、本学大学院生・教職員・学部学生、および学内外の関係者を対象に行っている連続講座です。

第一回目は、生理学・神経科学研究を専門とする筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構機構長(筑波大学教授)柳沢正史氏を講師に迎え、『睡眠・覚醒の謎に挑む』とのテーマで枚方学舎加多乃講堂にて実施されました。柳沢氏は、われわれが毎日体験しているながらその大部分が解明されていないといわれる“睡眠”について、最新の研究結果などを用いながら解説しました。



第一回で講演中の柳沢教授

第二回目は分子脳科学者の立命館大学総合科学技術研究機構教授三品昌美氏を講師に迎え『シナプス分子から脳と心へ』



第二回で講演中の三品教授

とのテーマで枚方学舎1階第1講義室にて実施されました。三品氏は、脳の高次機能や障害を分子レベルで解明しようとし、その研究成果が高く評価されたことで、2016年度学士院賞を受賞しています。講演では、脳の興奮性情報伝達を担うグルタミン酸受容体の分子実体解明による脳機能の理解に取り組んだ過去の研究について振り返るとともに、この分野での最新の知見も紹介しました。

各分野の第一人者から直接講義を受けることができる特別な機会に、多くの受講者が集まりました。

## 大学院教育ワークショップ

平成28年11月16日(水)午後5時20分から、枚方学舎2階第4講義室および学生セミナー室において、「平成28年度(第10回)大学院教育ワークショップ」が行われました。今年度4月にスタートした新カリキュラムの評価および次年度に向けた改善を目的とした本ワークショップには、伊藤誠二副学長(医化学講座教授)、中邨智之大学院教務部長(薬理学講座教授)をはじめとして、大学院教育に関わる教員と大学院生32名が参加しました。

グループ別のディスカッションでは、今期から新たに導入された『選択必修コース』におけるコースミーティングおよびリポートの運営に関わる内容のほか、学生の受講態度、留学生や社会人学生に対するサポートなど、さまざまな議題が話し合われました。また、グループで

討議された内容は全体討議の場で共有され、質疑応答などを経てさらに深められました。今後、より一層の大学院教育充実に生かされていく予定です。



グループワークの様子

## 医学部入学試験のお知らせ

本学では入学志願者の利便性向上を図り、2013年度以降に順次、試験会場を増設してきました。平成29年度一般入学試験(前期)第1次試験は1月28日(土)午前9時から大阪・東京・名古屋・福岡の4会場で行われました。

また、まもなく受付を開始する一般入学試験(後期)の出願期間は、平成29年2月6日(月)～2月23日(木)(必着)で、第1次試験は3月4日(土)午前9時から枚方学舎にて行われます。

## 平成28年度慈仁会全国懇談会を開催

平成28年10月16日(日)午前11時から枚方学舎加多乃講堂を主会場に、4学年を除く1～6学年の保護者305名が参加し、平成28年度慈仁会全国懇談会が開催されました。冒頭の総会は各学年の講義室へ同時中継され、友田幸一学長、福永幹彦学生部長、野村昌作教務部長および慈仁会塩田啓仁委員長が順に挨拶。その後はクラスアドバイザー教員とのクラス別懇談会、個別懇談会が行われました。

また、個別懇談会と並行して図書館やシミュレーションセンター、歴史資料室(以上枚方学舎3階)、オープンラウンジ(同1階)、カフェテリア(同4階)、中庭等の見学、大学の副章をデザインしたバッジ、学舎の絵葉書など大学関連グッズの販売も行われ、全国から訪れた保護者で賑わいました。

なお、4学年の懇談会は11月5日(土)に開催されました。



挨拶する友田学長

## 第42回実験動物慰霊祭

平成28年11月24日(木)午後1時から枚方学舎加多乃講堂において「第42回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や伊藤誠二副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。冒頭、実験動物飼育共同施設上野博夫施設長(病理学第一講座教授)が慰霊の辞を述べ、「実験動物の重要性はいつそう高まってきている。今後も科学的・社会的に適正な動物実験を行っていく」と誓いました。その後、午後3時まで加多乃講堂に設けられた献花台には、研究者や教職員が次々と慰霊に訪れました。



慰霊の言葉を捧げる上野施設長

## 解剖学第二講座山本教務技術員が文部科学大臣表彰を受賞

平成28年度医学教育等関係業務功労者に解剖学第二講座山本哲司教務技術員が選ばれ、平成28年11月22日(火)文部科学省において行われた表彰式に出席。文部科学大臣表彰を受賞しました。

文部科学省では、医学・歯学の教育や研究等の補助的業務において特に顕著な功績のあった人を対象に大臣表彰を行っています。今回、山本教務技術員が昭和55年の本学入職以来、36年余の長きにわたって解剖実習の円滑な遂行に寄与した功績が認められ、表彰を受けるに至りました。



賞状を手に写真に納まる山本教務技術員

## 大阪府医師会から、岩坂常務理事・木下学長特命教授が永年勤続表彰を受ける

平成28年11月3日(木・祝)午前11時から、シェラトン都ホテル大阪(大阪市天王寺区)において大阪府医師会創立69周年記念式典が開催され、永年勤続本会職員表彰として賞状・記念品が贈呈されました。本学からは岩坂壽二常務理事(総合医療センター病院長)が在任20年以上の本会代議員として、木下洋学長特命教授(医学教育センターセンター長)が在任20年以上の本会各種委員会医員として、それぞれ表彰を受けました。

## 国際交流セミナー「アメリカでの看護事情」開催

平成28年10月24日(月)午後5時15分から枚方学舎2階第4講義室において、アメリカのカリフォルニア大学サンフランシスコ校整形外科長尾正人准教授を講師に招いての国際交流セミナーが行われ、友田幸一学長をはじめ、国外臨床実習に参加予定の学生や現役の看護師を含む35名が参加しました。講演は「アメリカでの看護事情」をテーマとし、アメリカにおける看護師の職務内容や日本との相違点、看護大学での教育や実習、国家試験および合格率などについて解説があり、参加者は熱心に聴講しました。また、講演の最後にはスマートフォンなどを用いて解答できるクイズ形式の理解度チェックテストも行われ、解答結果が即時に集計されスクリーンに表示される機能に会場が盛り上がりました。また質疑応答では、活発な意見交換がなされました。



セミナー終了後、記念撮影に応じる長尾准教授  
(前列左から2人目)

## バーモント大学医学部生が来学

平成28年10月31日(月)、本学学術交流協定校であるアメリカのバーモント大学から3名の医学生 Taylor M. Goller氏、Christina M. Litsakos氏、Rebekah Wieland氏が来学しました。3名は滞在中、病棟や手術の見学、救急医療システムに関するディスカッションなどを行いました。また、滞在最終日の11月11日(金)午後5時30分からは枚方学舎4階カフェテリアにおいてフェアウェルパーティーが開かれ、友田幸一学長、野村昌作副学長・教務部長(内科学第一講座教授)ほか、学生や留学生らが集まりました。平成29年度にバーモント大学で臨床実習予定である学生2名の司会進行のもと、野村副学長・教務部長から開会挨拶・乾杯の発声がなされ、その後バーモント大学からの留学生が、日本とアメリカの医学教育の違いなどについてプレゼンテーションしました。友田学

長からは英語と日本語で書かれた2冊の修了証が3名それぞれに手渡され、また、サプライズで3名にプレゼントが贈られる場面もありました。

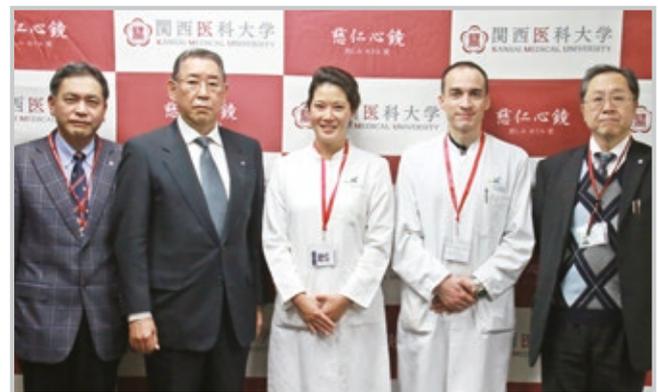


フェアウェルパーティーでの記念撮影

## レバークーゼン総合病院から研究員が来学

平成28年11月19日(土)、本学と学術交流協定を結ぶドイツのレバークーゼン総合病院から、Alexander Dweik氏とJasmina Hahn氏の2名が来学しました。レバークーゼン総合病院には、本学より毎年国外臨床実習生を派遣しています。11月21日(月)には2名の研究員が友田幸一学長、野村昌作副学長・教務部長(内科学第一講座教授)、国際交流センター西山利正センター長(公衆衛生学講座教授)を表敬訪問しました。その席上で、友田学長からレバークーゼン総合病院の様子や来日経験についての質問が投げかけられるなど、和やかな雰囲気の中、親交を深めました。

Dweik氏とHahn氏は12月2日(金)まで本学に滞在し、外科手術や病院施設の見学などを行い、帰国の途につきました。



Hahn氏(中央)とDweik氏(中央右)を囲んでの記念撮影

## ベトナムで鼻内内視鏡手術の、教育プロジェクトを実施

平成28年1月、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座朝子幹也准教授、濱田聡子講師らを中心とする医療チームがベトナム社会主義共和国を訪れ、ダナン病院において鼻内内視鏡手術機器の贈呈と内視鏡手術の指導教育を行いました。これは大阪中之島ロータリークラブが主導する「ベトナムにおける鼻内内視鏡手術の発展と教育プロジェクト」に、山下敏夫理事長や友田幸一学長、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座が支援・協力し、実現させたもの。現地ではダナン病院の医師2名に朝子准教授らが手技を指導し、副鼻腔炎を中心に26例の鼻内内視鏡手術をサポートしました。また、近隣病院に勤務する耳鼻咽喉科医

にも研修を実施するなど、同国における内視鏡手術スキルの向上や同国医療の発展・充実に貢献しました。

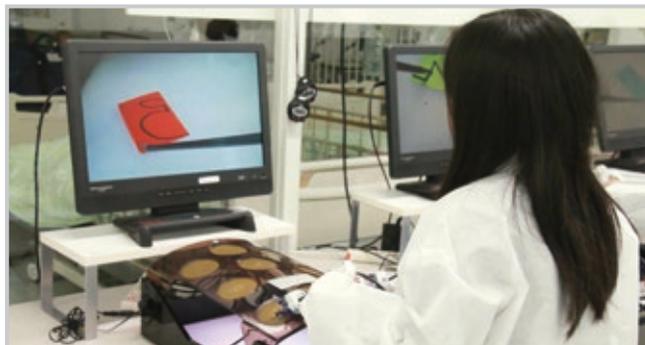


朝子准教授らの指導を受け、内視鏡手術に挑むベトナム人医師ら

## 子ども大学探検隊・中高生を対象とした大学体験を開催

平成28年11月19日(土)午後1時30分から枚方学舎各所において、「子ども大学探検隊」および「中高生を対象とした大学体験」が合同開催され、28名の小学生、中学・高校生が参加しました。これは「学園都市ひらかた推進協議会事業」の一環で、枚方市と市内6大学の連携による“より魅力あるまちづくり”を目的に行われるもの。野村昌作副学長(内科学第一講座教授)の開会挨拶に続き、参加者たちはグループに分かれシミュレーションセンターでの実習活動に参加。医学生に教わりながらAEDを用いてのBLS(一次救命処置)を体験したり、外科医に教わりながら医学教育用のシミュレータでの外科手技トレーニングに取り組んだりしました。その後に行われた医学生の案内による附属病院の院内ツアーでは、通常見ることのできない治療機器やエリアの見学に、参

加者たちは興味が尽きない様子でした。続いて、学生による学生生活紹介のプレゼンテーションと、外科学講座柳本泰明講師によるがんの講義を聴講しました。最後は野村副学長から一人ひとりに受講証と記念品が手渡され、参加者は充実した一日となった様子でした。



白衣を着て外科手技トレーニングを体験する参加者

## 「ひらかた市民大学2016」開催

平成28年11月12日(土)午後3時から枚方学舎1階第1講義室において、「ひらかた市民大学2016」が開催されました。これは枚方市が市内の6大学と提携して、それぞれの大学の専門的な知識・情報に触れる場を提供することで、生涯学習の機会提供と生きがいの増進を目指して開催している講座です。

当日は健康科学教室木村穰教授が『明日から役に立つ楽しい健康長寿のための秘策』と題して講演を行いました。参加した95名の市民は熱心に聴き入り、講義後には活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに終了しました。



講義を行う木村教授

## 第13回医療安全大会開催

平成28年12月12日(月)午後5時30分から、附属病院13階講堂・合同カンファレンスルーム、総合医療センター南館2階臨床講堂、香里病院8階会議室の3病院4会場を結び、「第13回医療安全大会」が開催されました。本年は附属病院305名、総合医療センター234名、香里病院81名の計620名が聴講しました。

医療安全管理センター神崎秀陽センター長が司会を務め、附属病院澤田敏病院長、山下敏夫理事長が順に挨拶。安心・安全の医療を提供するという意識を高める本会の目的や、昨今特定機能病院に対する社会の目が厳しくな

っていること、日ごろ医療安全に貢献している職員への感謝の言葉などが語られました。

その後は3病院から下記の6名が、実例に基づいた発表を行いました。発表の後には質疑応答の時間が設けられ、他院の事例を自分たちの職場における安全性向上に役立てようと積極的に質問する姿が見られました。閉会挨拶では、総合医療センター岩坂壽二病院長が多岐にわたる事例の発表をねぎらい、今後のさらなる医療安全の向上に向けての決意を述べて会を締めくくりました。



入院中の自傷行為について説明する山根助教



災害支援での経験を語る熊山臨床工学技士



麻疹発症時の対応について発表する三島助教

### ●当日の発表プログラム

#### 第一部 <附属病院>座長：医療安全管理部 岡崎 和一部長

「入院中に自傷行為をした一例の振り返り」	心療内科 山根 朗 助教
「流行性角結膜炎（EKC）アウトブレイクとその対策」	感染制御部 宮良 高維 部長 眼 科 加賀 郁子 助教

#### 第二部 <香里病院>座長：医療安全管理部 廣原 淳子 部長

「地震から学ぶ安全意識 ～熊本地震の支援経験から～」	血液浄化療法部医用工学室 熊山 義久 臨床工学技士
----------------------------	------------------------------

#### 第三部 <総合医療センター>座長：医療安全管理部 岩瀬 正顕 部長

「関西医科大学総合医療センターリエゾンチームの役割」	精神神経科 北浦 祐一 助教
「麻疹（はしか）対応の再確認事項」	海外渡航者医療センター 三島 伸介 助教

## 災害訓練を実施しました

平成28年10月15日(土)午前9時から附属病院において災害訓練が行われました。今年は早朝4時30分という時間帯に震度6強の大規模地震が発生したという想定



ドクターヘリによる患者搬送訓練の様子(附属病院)

で、まずは限られた当直人員による初期対応を行い、その後順次参集してきた職員が加わるという形が取られました。訓練

には医師、研修医、看護師、医療技術職、事務職あわせて約200名のスタッフ、枚方寝屋川消防組合から車両2台、約15名の消防・救急隊員が参加。附属看護専門学校の学生40名も模擬傷病者役として参加しました。訓練終了後の全体反省会では、澤田敏病院長が「訓練で改善点に気づけたことこそが、訓練の意義である」とコメントしました。

また、総合医療センターにおいても同日午前9時から総勢約120名が参加して災害訓練が行われました。新本館開院にあたり、災害時にどのような災害医療体制を発揮できるかを検証することを目的として実施され、訓練終了後の報告会では、岩坂壽二病院長が「より高度な災害医療を提供する病院となったことを意識して対応してほしい」とコメントしました。

病 院

## 関西医科大学3附属病院「看看連携の会」開催

平成28年12月3日(土)午後2時から、枚方学舎加多乃講堂において「平成28年度大阪府訪問看護ステーション協会北河内ブロック 関西医科大学3附属病院看看連携の会」が開催されました。これは、地域の看護師や介護職、医療従事者と本学附属医療機関との連携を深めることにより、北河内医療圏における医療・看護ケアの質的向上を目指す取り組みで、今年は205名が参加しました。

附属病院安田照美看護部長の挨拶に続き、同循環器内科妹尾健助教(内科学第二講座)や、同6N病棟大北亜樹副師長(慢性心不全看護認定看護師)、同健康科学センター宮内拓史心臓リハビリテーション指導士、地域医療連携部福岡志野師長(退院支援看護師)が“心不全”をテーマにそれぞれ講演し、医師・看護師・トレーナーの視点から地域の医療従事者に求めること、患者さんを取り巻く現状などについて講演・報告しました。

講演終了後は会場を枚方学舎3階学生食堂に移し、懇親会を開催。普段なかなかじっくりと話す機会のない地域の医療従事者と本学関係者が、親睦を深めました。



講演に耳を傾ける参加者

附属病院

## インドネシア人看護師候補者附属病院訪問

平成28年10月11日(火)午後2時から、インドネシア人看護師候補者46人が附属病院を訪れ、見学会が行われました。これは、母国で看護師として働いている候補者が日本でも勤務できるよう、日本・インドネシア経済連携協定(EPA)を受けて行われている研修の一環。候補者は母国で半年かけて研修を受けています。

一行は13階合同カンファレンスルームにおいて、安田照美看護部長から附属病院の看護体制や日本の看護の現状について説明を受けたのち、師長や副師長らの案内のもと、5グループに分かれ病棟設備やシステムを見学。最後に行われた意見交換会では「インドネシアと同じところもあったが、異なることも多く勉強になった」「海外

からの研修医や看護師はいるか、今後採用する予定はあるか」など、活発な意見交換や質疑応答が行われ、多くの学びが得られた様子でした。



病棟を見学するインドネシア人看護師候補者

附属病院

## 「2016年度病院ボランティアの集い」への参加

平成28年10月26日(水)午後1時から、ホテルアウイーナ大阪(大阪市天王寺区)において日本病院ボランティア協会主催「2016年度病院ボランティアの集い」が開催されました。この集いは各病院の病院ボランティア、ボランティアコーディネーター、ボランティア担当職員等が一堂に会する交流会で、この日も参加者間で活発な意見交換がなされました。その中で、活動1,000時間達成者に感謝状と記念品が授与されました。

附属病院の病院ボランティア1,000時間達成者は小澤田鶴子さん、濱田幹男さん、吉房勝治郎さんの3名。そのうち、表彰式に出席した小澤さんが登壇し、日本病院ボランティア協会吉村規男理事長から感謝状を授与され

ました。その後は親睦会も催され、出席者らは手作りのマラカスでピアノに合わせて歌を歌い、楽しい時間を過ごしました。また、表彰式に出席しなかった2名にも後日感謝状と記念品が授与されました。



日本病院ボランティア協会吉村理事長から感謝状の贈呈を受ける小澤さん(右)

附属病院 **クリスマスコンサート開催**

平成28年12月17日(土)午後2時30分から附属病院2階エントランスホールにおいて、ボランティア委員会主催によるクリスマスコンサートが開催され、入院患者さんやお見舞いの方ら約250人が吹奏楽の迫力ある音楽を楽しみました。

このコンサートは例年大阪国際滝井高等学校の吹奏楽部を招いて実施されており、本年も同校の生徒約60名が来院。「ジングルベル」「花は咲く」など計9曲を演奏しました。また、楽器紹介を兼ねてそれぞれの楽器のみの演奏も行われました。

訪れた聴衆らは曲に合わせてリズムを取ったり手拍子を打ったりしながら、音楽のクリスマスプレゼントを楽しんでいました。



トランペットを演奏する生徒らと演奏を楽しむ聴衆ら

附属病院 **第1回関西腎臓セミナー、第3回腎移植患者会開催**

本学附属病院には平成27年9月、腎疾患に対して診療科横断的な治療を提供し、地域医療機関とも連携して良質な医療サービスを実現するため、腎センターが設置されました。

また、こうした取り組みを地域医療機関で働く医師に知ってもらい、患者さんが最適な腎代替療法を選択できるよう地域連携の強化を目指しています。その一環として、平成28年11月25日(金)午後6時30分から、附属病院13階講堂において第1回関西腎臓セミナーが開催されました。この日は腎センター矢西正明助教ら本学医師による講演に加え、特別講演として香川大学腎臓内科講師祖父江理氏が『腎移植における内科医の役割』をテーマに登壇するなど、有意義なイベントとなりました。

加えて、10月22日(土)午後2時から、附属病院13

階合同カンファレンスルームにおいて“サルコペニア”をテーマとする第3回腎移植患者会も行われました。



第3回腎移植患者会

総合医療センター **世界糖尿病デーフェスタ2016開催**

平成28年11月5日(土)午後1時から総合医療センターにおいて「世界糖尿病デーフェスタ」が開催されました。これは国際糖尿病連合(IDF)と世界保健機関(WHO)が制定し、国際連合が認定した糖尿病啓発の日である『世界糖尿病デー』の関連イベントとして実施されたもので、4回目となる今年は「糖尿病と眼の関係」をテーマに開催されました。午後1時35分からは、循環器腎内分泌代謝内科野村恵巳子講師(内科学第二講座診療講師)の開会挨拶に続き、眼科尾辻剛准教授(眼科学講座講師)が「あなたの眼は大丈夫!? 糖尿病と眼の関係」を講演。その後は健康科学センター久保田眞由美健康運動指導士が「糖尿病との付き合い方～運動編～」を講演し、参加者は糖尿病やその予防に効果的な運動への理解を深めました。会場には他にも血糖測定や血圧測定、フットケア

などの体験コーナーに食事療法フードモデルの展示コーナーも設けられました。



講演中の尾辻准教授

## 平成28年度ホームカミングデイ開催

平成28年10月29日(土)午前10時から、附属看護専門学校牧野キャンパスにおいて「平成28年度ホームカミングデイ」が開催されました。この日は、昨春学校を巣立った34期生・47名が参加。卒業した先輩6名も参加し、看護師として働いてきた中での体験談やアドバイスを送り卒業生へエールを送りました。

その後は、3年間の学生生活をともに過ごした仲間同士で、お世話になった先生も交えて歓談し、仕事の話や思い出話などを、思い思いに楽しんでいました。最後は中庭に出て集合写真を撮影し、全プログラムが終了。参加者は名残惜しそうに牧野キャンパスを後にしました。



卒業生と教員で記念の集合写真を撮影

## キャンドルサービス

平成28年12月20日(火)午後3時30分から附属病院において、附属看護専門学校学生によるキャンドルサービスが行われました。キャンドルを手にした学生がグループに分かれ、順々に病室を訪問。温かい光に照らされた病棟内に「きよしこの夜」の歌声が響く中、学生たちは入院患者さんたちにメッセージカードを手渡しました。病室を回った後は全員が1階センターアトリウムに集

合し、「赤鼻のトナカイ」「あわてんぼうのサンタクロース」などのクリスマスソングを合唱しました。

附属病院川村元伸事務部長、附属看護専門学校牛嶋百合子教務部長の挨拶の後、実行委員代表の鮎川奈々さんが「実習で多くのことを学ばせていただいている患者さんへの、感謝の気持ちを込めてキャンドルサービスに臨んだ」と述べました。



歌声を響かせながら病室を訪問



クリスマスソングを歌う学生ら

## 平成29年度附属看護専門学校推薦入学試験結果

平成28年11月19日(土)午前9時から、附属看護専門学校において「平成29年度附属看護専門学校推薦入学試験」が実施され、71名が受験しました。合格発表は11月29日(火)午前9時に行われ、看護専門学校玄関に合格者43名の受験番号を掲示するとともにホームページでも公開しました。

## 平成28年度臨床研修指導医養成講習会開催

平成28年10月7日(金)・8日(土)の2日間、大阪市のホテルコスモスクエア国際交流センターにおいて「平成28年度臨床研修指導医養成講習会」が開催され、学内関係者28名、学外研修協力病院関係者2名の合計30名が受講しました。

厚生労働省が定めた指針に基づく、臨床研修指導医に必要な講習会の受講と修了証書の取得を目指して実施。聖路加国際病院福井次矢病院長、高知医療再生機構倉本秋理事長をアドバイザータスクフォースとして招聘し、ワークショップ形式での全体討議、グループワーク、ミニレクチャーを行いました。受講者は、臨床研修医に対する教育指導の目標や評価法への理解を深め、基本的な臨床能力を備えた研修医養成能力を習得しようと、講演に聴き入るとともに活発な議論を交わしました。



講習会の様子

## 初期臨床研修合同説明会開催

平成28年12月3日(土)午後3時から附属病院13階講堂において、平成30年度以降の研修医採用に向けた「初期臨床研修合同説明会～医師としての大切な第一歩を一緒に考えよう～」が開催されました。松田公志副学長(腎泌尿器外科学講座教授)臨席のもと、本学から25名、他大学から6名、合計31名の第4・5学年医学部学生が参加。また、説明会後に開かれた情報交換会にも引き続き多数の医学生と臨床研修指導医らが出席し、会場は活況を呈しました。

## 看護管理者研修、看護副師長研修実施

平成28年10月6日(木)、附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて3病院と附属看護専門学校、訪問看護ステーションから看護管理者58名が参加し、合同研修が行われました。人材育成コンサルタント・社員教育インストラクターの江藤かをる氏を講師に迎え、組織の変革、働く人の意識・行動変容をテーマに講義を実施。その後は、参加者が協力して積極的に参加できるよう、加点方式のグループ活動を実施しました。

また、10月7日(金)、同じく合同カンファレンスルームにおいて3病院の看護副師長59名を対象に合同研修を開講。参加者は、事前に外部環境のデータを持ち寄るなどの準備をして臨んだこともあり、活発に意見交換をしていました。

各々の職場の課題を明確にして、少子高齢化などの外部環境の変化を乗り越える策を考える機会となりました。



看護副師長研修の様子

## 看護職教育担当者研修開催

平成28年10月30日(日)、附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて、一般社団法人日本体験学習研究所津村俊充代表理事・所長を講師に迎え「ファシリテーターの役割と技法」、11月5日(土)には医療法人協和会法人本部青木菜穂子統括部長を講師に迎え「スタッフの成長を促すコミュニケーションスキル」をテーマとする研修が開催されました。この研修は、人間関係構築のためのスキル習得や、成人学習の特徴を踏まえた教育への関与に関する方法論を学ぶためのもの。実践的な講義内容に参加者は理解を深めていました。



## 学会主催報告

2016年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

## 第58回日本消化器病学会大会・第23回日本消化器病週間(JDDW2016)・アジア太平洋消化器病週間(APDW2016)

■会期 2016年11月2日～11月6日 ■場所 神戸コンベンションセンター

第58回日本消化器病学会大会会長・第23回日本消化器病週間(JDDW2016)の運営委員長・アジア太平洋消化器病週間(APDW2016)の組織委員長を務めました。日本全国、アジア太平洋地域の消化器病研究者が一同につどい過去最多の23,000人余が参加し、上部・下部消化管、肝・胆・膵のあらゆる消化器領域の最新の知見が発表されました。

【第58回日本消化器病学会大会長、JDDW2016運営委員長・APDW2016組織委員長／内科学第三講座 岡崎 和一】



## 第43回日本股関節学会学術集会

■会期 2016年11月4日～11月5日 ■場所 大阪国際会議場

この度、第43回日本股関節学会学術集会の会長を務めました。股関節治療は時代背景から近年人工関節手術が多くなる傾向にあります。本学会は人工関節のみならず、小児から成人までの股関節に取り巻く未解決の課題についてシンポジウム・パネルディスカッションを企画し、熱い討議が行われました。医師だけでなく、看護部門、リハビリ部門の発表もあり、参加者総数は過去最高の1,947名で、無事盛会のうちに終了しました。

【第43回日本股関節学会学術集会会長／整形外科科学講座 飯田 寛和】



## 学会賞受賞情報

2016年10月～12月の学会賞受賞者を紹介します。

## 日本静脈麻酔学会賞

附属生命医学研究所侵襲反応制御部門  
廣田 喜一 学長特命教授

- テ ー マ Transmitochondrial Cybrids 細胞を用いた  
プロポフォル細胞毒性の検討  
ープロポフォル注入症候群の病態生理学  
■授与学会 第23回日本静脈麻酔学会



## 日本薬物脳波学会奨励賞

精神神経科学講座 池田 俊一郎 助教

- テ ー マ eLORETA尖度解析を用いたてんかん性  
異常波の発生源推定による脳波検査自  
動解析機能への展望  
■授与学会 第19回日本薬物脳波学会



## 若手奨励賞

麻酔科学講座 吉田 敬之 助教

- テ ー マ 新しい超音波ガイド下閉鎖神経ブロック  
近位法の臨床評価と解剖学的検討  
■授与学会 日本臨床麻酔学会 第36回大会



## 優秀演題賞

小児科学講座 木全 貴久 講師

- テ ー マ アバタセプトが寛解維持に有効であった  
巣状分節性硬化症の1例  
■授与学会 第46回日本腎臓学会 西部学術大会



## 日本臨床精神神経薬理学会学会奨励賞

精神神経科学講座 嶽北 佳輝 助教

- テ ー マ 統合失調症患者において  
D2受容体遮断薬の使用歴は治療効果に  
影響するか？  
■授与学会 第26回日本臨床精神神経薬理学会 年会



## 本学教職員編著作物紹介

2015年10月～2016年12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

「医学部教授が語る医学部受験と医師への道～医学部のすゝめ～」

英語教室 中川 淳 教授 著

- 出 版 エール出版社  
■発 行 2016年7月

「医療情報技師能力検定試験 過去問題・解説集2016」

大学情報センター 仲野 俊成 准教授  
(日本医療情報学会医療情報技師育成部会) 他 編集・監修

- 出 版 南江堂  
■発 行 2016年4月



## 教職員メディア情報

新聞・雑誌等の取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオ等に出演した教職員を紹介します。

(主に平成28年10月1日～12月31日 ※判明のみ)

健康科学教室 木村 穰 教授	毎日新聞 (10月22日夕刊)	本学が健康ビッグデータを活用した地域活性化事業に取り組むことが取り上げられ、事業の概要や特徴が紹介されました。また、統括責任者である木村教授が本事業の狙いや将来像についてコメントしました。
外科学講座 山本 大悟 准教授 放射線科学講座 志賀 淑子 助教	読売新聞 (11月13日朝刊)	乳がん手術後の再発を防ぐ、「SAVI」という装置を用いた新たな放射線治療が広がりを見せていることが取り上げられ、関西での導入施設として総合医療センターが紹介されました。また、治療に携わる山本准教授と志賀助教のコメントが掲載されました。
精神神経科学講座 木下 利彦 教授	日本経済新聞 (11月13日朝刊)	「日曜に考える」のコーナーで「冬の鬱病」とも言われる季節性情動障害について取り上げられ、症状や治療法について解説しました。
精神神経科学講座 木下 利彦 教授	TBS「ひるおび！」 (11月14日)	日本経済新聞朝刊に掲載された“季節性情動障害”の記事が取り上げられ、木下教授の症例の多い地域などに関するコメントが紹介されました。
小児科学講座 石崎 優子 准教授	NHK「ニュース7」 (11月13日)ほか	虐待が原因で医療機関での治療が終わった後も入院を続ける“子どもの社会的入院”の問題が取り上げられ、大阪府小児科医会の調査グループ代表として取材を受けました。その中で、当事象に関して「全国的調査をして対策を検討する必要がある」とコメントしました。
関西医科大学	読売新聞 (11月19日)	本学が内閣府の地方創生加速化交付金事業の一環として取り組む、ウェアラブル端末を使用した健康創生事業が取り上げられ、事業モデルや特徴などが紹介されました。
皮膚科学講座 山崎 文和 講師	毎日新聞 (11月23日朝刊)	11月13日(日)に行われた大阪皮膚科医学会主催「皮膚の日講演会」に登壇し、「乾癬の最新の治療法」について解説したことが紹介されました。
外科学講座 井上 健太郎 准教授	読売テレビ 「おはよう！ドクター」 (11月26日)	“胃がんの腹腔鏡手術”が取り上げられ、胃がんの早期発見の重要性について説明しました。また、井上准教授がシミュレーションセンターで学生に指導する様子も放映されました。
整形外科科学講座 長谷 公隆 診療教授	テレビ東京「話題の医学」 (12月4日)	「脳卒中リハビリテーション支援ロボット」というテーマに沿って、脳卒中リハビリテーションの流れ、リハビリテーション・ロボットの種類や機能、効果、本学附属病院におけるロボットを用いたリハビリテーションなどについて説明しました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	毎日新聞 (12月8日朝刊)	連載「がん大国白書」において高齢者に対するがん治療の現状が取り上げられ、海堀准教授らの研究チームが手術後に起きる疾患リスクを事前に予測する臨床研究を行っていることが紹介されました。
小児科学講座 谷内 昇一郎 准教授	毎日放送 (12月9日)	乳児のアレルギー発症率抑制に成功した国立成育医療研究センターの研究結果について自身の見解を示し、研究結果を治療に活用するメリットを説明する一方、必ず医師の指導のもとで行うよう注意を促しました。
内科学第二講座 岩坂 潤二 診療講師	山形新聞 (12月11日)	心臓病の再発予防を目的に行う「心臓リハビリテーション」に“木剣体操”を取り入れる研究をしていることが紹介されました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	週刊朝日 1/6-13合併号 (12月27日発売)	高齢者のがん手術に関する取材を受け、「外科系学会でもエビデンスに基づいた本質的な討議がなされていない」とコメントし、現状への懸念を示しました。

\*このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。今号では本学教職員編著作物紹介コーナーを設けました。情報収集にあたりご協力賜りました先生方に感謝申し上げます。今後も随時紹介していく予定ですので、編著作物出版された折には広報戦略室まで情報をお寄せください。

年々涙もろくなってきているのを実感する私ですが、今号で取り上げた附属病院クリスマスコンサート、附属看護専門学校キャンドルサービスの取材中には、感動のあまり思わず涙があふれそうになりました。今年はどんな方、どんなできごととの出会いがあるのでしょうか。

新しい一年がみなさまにとって良き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。  
(さ)

## 関西医科大学広報 Vol.36

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)  
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp/>

E-mail : [kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp](mailto:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp)

平成29年1月31日(火)発行